

追跡レポート 2年前の あの答弁はどうなった!!

平成22年7月15日発行
第146号より

平成23年4月1日から、中学1年生から高校1年生に相当する年齢の女子を対象に、子宮頸がんワクチンの接種費用を全額補助している。

現在は

A 子宮頸がんを予防するには、定期的な子宮がん検診を受けることが効果的とされている。子宮頸がんワクチンの公費助成は、他市町の状況をみながら検討していきたい。

Q ガンの予防、早期発見、早期治療が、ガン対策において一層重要。子宮頸がんワクチンの助成を。

「子宮頸がんワクチン予防接種」についてお知らせ

中学校1年生から高校1年生相当の年齢になられる女子の方を対象に、町の補助にて子宮頸がんワクチン予防接種が受けられます。接種回数は全3回です。

接種を希望される方は、町内の接種実施医療機関にご予約の上、接種を受けてください。

なお、この通知は、中学1年生になられる女子の方に送付しています。

医療機関にて、対象者であるかどうかの確認をするために、接種の際は、必ずこの通知書を持参してください。この通知書が、公費負担の対象者であることの証明となります。接種の際、毎回この通知書を持参し、接種を終えるまでは紛失しないようにお願いします。

- <対象者> 中学校1年生～高校1年生相当の年齢になられる女子（平成8年4月2日生まれ～平成12年4月1日生まれ）
- <接種期間> 平成25年3月31日（日）まで
- <接種回数> 全3回 ※接種間隔については裏面をご覧ください。
- <接種場所> 裏面の医療機関
- <費用> 無料
- <持ち物> この通知書、母子健康手帳（お持ちの方）、診察券（お持ちの方）健康保険証

裏面もご覧下さい。

子宮頸がんはワクチンと検診で予防できます。

子宮頸がん予防ワクチンは2種類あります。

現在、日本で接種できる子宮頸がんの予防ワクチンは2種類あり、効果はそれぞれ異なります。接種する子宮頸がん予防ワクチンの種類については、お医者さんにご相談ください。

十分な予防効果を得るため、必ず両種類のワクチンも接種することが必要です。

接種する子宮頸がん予防ワクチンの種類については、お医者さんにご相談ください。

「子宮頸がん」の予防には、ワクチンの接種と定期的な検診が重要です。

ワクチンを接種してもすでにヒトパピローマウイルス（HPV）感染に感染している、または感染のウイルスが検出されている、子宮頸がんが検出される可能性があります。早期発見と、治療のために2回接種を完了したら定期的に子宮頸がん検診を受けるようにしましょう。

子宮頸がんはごく初期にみつければ、子宮頸部の癌を切り除くだけの手術で治癒可能です。結果、妊娠も可能です。

もっと守ろう.jp <http://motto-mamoru.jp/>

ワクチン接種に関するより詳しいQ&Aなど、子宮頸がんの予防に関する注意点をまとめた冊子があります。

2014年8月発行 総ページ数107ページ

現在、道路後退用地を個人管理地とされる方法の他に、町有地とする方法に向け、要綱の制定準備を進めている。

現在は

A 道路後退した土地を町が取得するのか、自己管理地にすることも含め、今後検討する。

Q 道路後退により町道に寄与している私有地の固定資産税減免を。

入札参加資格登録者を発注対象者とすることで、公金の支出にあたって信頼性を確保しているため、中小企業者の方にも登録をお願いしていきたい。

現在は

A 発注は、町内業者の育成と受注機会の拡大のため名簿登録業者の内、町内業者を優先している。

小規模工事契約登録制度は考えていないが、実施団体があるようなので今後勉強していく。

Q 全国の439自治体や愛知県下14市町で実施している、小規模工事契約希望者登録制度を本町も実施してはどうか。